
届かない唄を、君に

玻泱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かない唄を、君に

【Nコード】

N3420BA

【作者名】

玻決

【あらすじ】

「目を覚ましたら、そこは知らない世界だった。――
異世界へと不運にも飛ばされてしまった高校生男子3人の、トリックファンタジー。
出会いが在れば、別れもまた然り。
どたばたな3人が繰り広げるノンストップストーリーへようこそ。」

独白

さよならの代わりに、唄を歌おう。

いつも何の表情も浮かべない君が、初めて笑って好きだと言ってくれたあの唄を。

自然と溢れて、この両の瞳から流れてくる涙は暫く止まらないけれど、最後の最期まで君に触れ合えたことに感謝しながら、君のためだけに歌おう。

君に出会えて良かった。

この言葉を君が嫌うと知りながら、君の好きな唄のタイトルはまさにその言葉を表しているだなんて、君はきっと知らない。今までも、そしてこれからも。

私だけの恋心。君に知られてしまった恋心。

蓋なんて、もうしないの。震える唇から紡ぎ出された歌声はどこか頼りないけれど、それでも君がもう一度笑いかけてくれることを期待しながら、さよならの代わりに歌う。

ありがとう、大好きでした。

笑わないくせに仲間思いの優しい貴方が、誰よりも大好きでした。

「起立！」

授業終了を告げるチャイムに合わせて、クラス委員の号令が静かに室内に響いた。

生徒の大半はそれに素早く反応し、席から立ち上がる。反応が遅れたとしても、或いは寝ぼけているにしても、他者に促されるままに席を立つ。

彼を、除いては。

窓際の一番後ろ。日当たりが良く風通しの良い、そして尚且つ教師に目を付けられ難いその席を、先日の席替えの際に運良く引き当てた彼。

そんな彼は今、心地の良い春の陽気に誘われて深い眠りについていた。

周りに突かれ、或いは激しく揺さぶられても彼が目覚ますことはない。ただ身じろぐだけで、後は只管沈黙を貫く、というより気持ち良さそうに寝息を立てていた。

「……、」

全員が立っているのだし、教師からあの席は見えないだろうか。

ふとそんなことを思ったクラス委員は、でもなと考え直す。つい先程まで熱心に教鞭を振るっていたこの教師は、陰険で嫌味つたらしいことで有名だ。気付かれたら、それこそ何て言われるか分かったもんじゃない。

けれど、考え過ぎかもなと苦笑いした彼は「礼」結局のところ、彼もこの授業からの解放を望んでいるのだ。大して感情を籠めるでもなくありがとうございましてと頭を下げ、他の生徒もそれに倣う。

教師はそれに満足でもしたのか、小さく頷いてみせると教材を抱えて足早に教室を出て行った。それに安堵した彼は、ちらりと左斜め後ろの席に視線を向ける。

そうすれば、先程までは微動だにせず眠っていた彼は、猫顔負けの大きな伸びをして、彼に話しかける生徒に対しておざなりな返事をしていているところだった。

そりゃあねえよ。

クラス委員である彼、瀬尾未散せのおみぢるはそう呟いて深い深い溜息を零すのだった。

その日の放課後。

まだ夕方とは言い難い、オレンジと蒼が空に混在する微妙な時間帯。

まだ家に帰るには少しだけ早い時間だ。

起きたばかりでぼんやりと纏まらない思考でただ漠然と思った彼は、くわあと猫顔負けの大きな欠伸をしながら身体を伸ばす。

防寒目的できつちりと着込んだ紺色のブレザーが、これ以上は伸びねえよというように、ピチッだかギチッだか分からない悲鳴を上げるが、そんなことは知ったことではない。

というか、この程度であっさりと裂けるような安物を買ったつもりはない。

彼は、そしてようやく周囲に目を向けた。時刻は15時52分。とつくにSHRも終わっていて、暮らすには彼を除いて人気はない。

きつと部活動に情熱を向けた奴やバイトがある奴、または遊ぶ事に

熱心な奴など、青春を謳歌している者達はさっさと教室を、又は学校から出て行ったのだろう。

若いな。

ぼつりと呟いた言葉は彼自身の耳朵を叩いただけで、誰かに届く事無く消えた。

そうして彼、櫻間^{さくま}永禮^{ながれ}は何をして時間を潰そうか考えているうちに、再び深い眠りの世界に迷い込むのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3420ba/>

届かない唄を、君に

2012年1月8日23時56分発行